日本産ヘリカメムシ類の新分類体系

菊原醸造株式会社　菊原勇作（きくはら ゆうさく）

はじめに

ダイズなどのマメ類の重要害虫であるホソヘリカメムシ属 *Riptortus* は，従来日本に4種が分布するとされてきたが，その形態は個体変異，地域変異，性差に富んでおり種の識別は困難であった。筆者は愛媛大学大学院在学中に日本産ホソヘリカメムシ属を再検討し，1新種を含めた3種に整理した。

同様に，ダイズなどのマメ類の害虫であるハラビロヘリカメムシ属 *Homoeocerus* についても，近年日本産の種の学名変更がなされているが，植物保護関係者にとって重要であると思われる原著論文が読まれることはほとんどないので，学名使用上の混乱を避けるため本稿で解説する。

同時に，ホソヘリカメムシ属と混同されがちな，ヒメホソヘリカメムシ属 *Melanacanthus* とキベリヘリカメムシ属 *Megalotomus* の紹介や，イネの害虫として知られるクモヘリカメムシ属 *Leptocorisa* の分布に関する新知見，タケやササ類に寄生するヒメクモヘリカメムシ属 *Paraplesius* の分類の見直しなど，日本産ヘリカメムシ類に関する最新の研究成果の一部を紹介する。

I　ホソヘリカメムシ属

1　日本産ホソヘリカメムシ属の再検討

ホソヘリカメムシ属 *Riptortus* はホソヘリカメムシ科 Alydidae に属し，従来日本にホソヘリカメムシ *Riptortus clavatus* (Thunberg, 1783)，キスジホソヘリカメムシ *Riptortus linearis* (Fabricius, 1775)，キボシホソヘリカメムシ *Riptortus pedestris* (Fabricius, 1775)，タイワンホソヘリカメムシ *Riptortus fuscus* (Fabricius, 1798) の4種が分布するとされてきた。

このうち，ホソヘリカメムシ，キボシホソヘリカメムシ，タイワンホソヘリカメムシの3種はいずれも体長や体形が似ているが，体側部の黄色斑紋によって分類されていた。しかし，体側部の黄色斑紋は個体変異や性差が大きく，ホソヘリカメムシ属の分類を混乱させる原因となっていた。

既にタイワンホソヘリカメムシがキボシホソヘリカメムシと同一種であるとの学説が提起されていたが (Blöte, 1934)，今回東アジア各地のホソヘリカメムシ属標本を元に交尾器などを詳細に検討した結果，タイワンホソヘリカメムシのみならず，ホソヘリカメムシもキボシホソヘリカメムシと同一種であることが明らかとなった。

すなわち，従来日本全土に広く分布しホソヘリカメムシとされてきた種の真の学名は *Riptortus pedestris* であり，中国大陸に広く分布する種と同一種であった。この *Riptortus pedestris* に対する和名としては従来キボシホソヘリカメムシがあてられていたが，こちらの和名が実際に用いられることは皆無であったし，現場の混乱を避けるため，*Riptortus pedestris* にホソヘリカメムシの和名を与えた。したがって，見かけ上はホソヘリカメムシの学名が *Riptortus clavatus* から *Riptortus pedestris* に変更されたことになる (Kikuhara, 2005)。

分類学上の措置から取り残された形となったキスジホソヘリカメムシは，北は奄美諸島から南は八重山諸島にまで分布すると考えられていたが，従来キスジホソヘリカメムシされていた種は実際には2種から構成されることが明らかとなった。真のキスジホソヘリカメムシは大型で沖縄本島以南からのみ確認され，キスジホソヘリカメムシに近似でより小型の種が，奄美諸島から八重山諸島にまで広く分布していることが明らかとなった。当初この小型の種は中国南部から知られていた近縁種と同一であると考えられたが，研究の結果，両種は形態的に異なっていることが明らかとなり，新種のヒメキスジホソヘリカメムシ *Riptortus ryukyuensis* Kikuhara, 2005 として記載された (Kikuhara, 2005)。

以上の結果，日本産ハラビロヘリカメムシ属は以下の検索表の通り3種となった。

日本産ホソヘリカメムシ属3種の検索表

1　前胸背板に不規則な黒色顆粒を備える（図-1）……ホソヘリカメムシ *Riptortus pedestris* (Fabricius, 1775)

体長：14～17 mm。分布：北海道，本州，四国，九州，壱岐，対馬，甑島列島，大隈諸島，トカラ列島，奄美諸島，沖縄本島，久米島，宮古島，八重山諸島；朝鮮半島，台湾，中国大陸，東南アジ

Systematic Notes on Some Japanese Coreoidea.　By Yusaku Kikuhara

（キーワード：ホソヘリカメムシ，ハラビロヘリカメムシ，クモヘリカメムシ，ヒメクモヘリカメムシ，学名，分類）

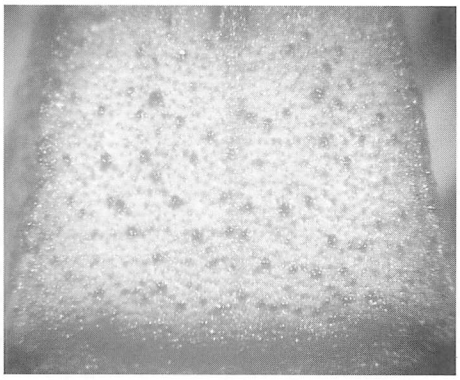

図-1　ホソヘリカメムシの前胸背板の黒色顆粒

ア，インド。

— 前胸背板は滑らかで黒色顆粒は見られない ……2

2　触角1～3節はオスの場合全体黒色，メスの場合基部が黒色……キスジホソヘリカメムシ *Riptortus linearis* (Fabricius, 1775)

体長：13～16 mm。分布：沖縄本島，宮古島，八重山諸島；台湾，中国南部，東南アジア。

— 触角1～3節は全体茶褐色……ヒメキスジホソヘリカメムシ *Riptortus ryukyuensis* Kikuhara, 2005

体長：11～13 mm。分布：奄美諸島，沖縄本島，宮古島，八重山諸島。

2　ホソヘリカメムシ属と誤認しやすい近縁属

ホソヘリカメムシ属とよく誤認される属があるのでここで触れておく。ヒメホソヘリカメムシ属 *Melanacanthus* は日本にヒメホソヘリカメムシ *Melanacanthus ferrugineus* (Stål, 1870；図-2) の1種のみを産し，体長9～11 mm で体色は茶褐色。クマツヅラ科海浜植物のハマゴウから得られている。本種は体型・体色共にホソヘリカメムシ属によく似ているが，ホソヘリカメムシ属に見られる前胸背板後縁中央の小突起を欠くこと，オスの小楯板が黄色となること，後脚腿節が比較的細いことで区別できる。国内では九州，トカラ列島，奄美諸島，沖縄本島，宮古島，八重山諸島から知られている。

同様にホソヘリカメムシ属と誤認されやすいキベリヘリカメムシ属 *Megalotomus* は日本にキベリヘリカメムシ *Megalotomus costalis* Stål, 1873 (図-3) の1種のみで，体長13～15 mm で体色は黒色。本州では山地のマメ科植物のクララに寄生するが，北海道では平地のダイズ畑にも侵入するという。ホソヘリカメムシ属とは，体色が黒色であること，和名の通り上翅外側縁が黄色であること，後脚腿節が細いことで区別できる。国内分布は北海道，本州，四国，九州とされるが西南日本では極めてまれである。

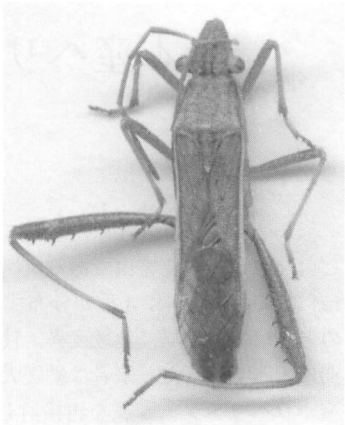

図-2　ヒメホソヘリカメムシ

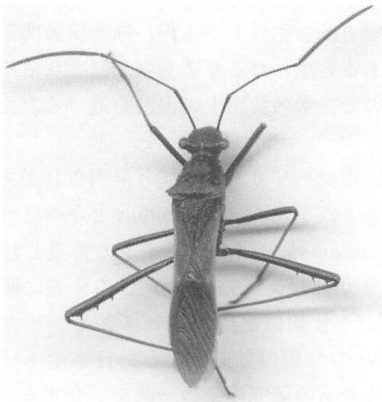

図-3　キベリヘリカメムシ

II　ハラビロヘリカメムシ属の再検討

ハラビロヘリカメムシ属 *Homoeocerus* はヘリカメムシ科 Coreidae に属し，長年にわたって日本にはハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus dilatatus* Horváth, 1879，ホシハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus unipunctatus* (Thunberg, 1783)，アズキヘリカメムシ *Homoeocerus marginiventris* Dohrn, 1860 の3種が分布するとされてきた。

しかしながら，実際には第4の種として，宮本 (1972) により四国と九州から *Homoeocerus pallidulus* Blöte, 1936 が記録されていた。この記録は発表誌の特殊性もあってか，その後省みられることも，追加の記録もなかったようである。今回筆者が日本各地で得られた本属の標本を詳細に再調査した結果，*Homoeocerus pallidulus*

BLÖTE, 1936が本州各地や南西諸島にも分布することが明らかとなった。現在明らかとなった分布の東限は愛知県であるが，寄主植物であると判明したマメ科植物のノアズキの分布から考えて，さらに広い地域に分布しているものと見てしかるべきである。なお，南西諸島の本種の寄主植物は未知である。

2006年に世界のハラビロヘリカメムシ属内の亜属関係が整理され，日本産のハラビロヘリカメムシ属内の種は同属内の亜属 *Tliponius* に含められた。またオオクモヘリカメムシ *Anacanthocoris striicornis* の属するオオクモヘリカメムシ属 *Anacanthocoris* がハラビロヘリカメムシ属の1亜属に格下げされた（AUKEMA and RIEGER, 2006）。そもそもオオクモヘリカメムシ属は，独立属とされる前はハラビロヘリカメムシ属内の亜属であったので，以前の体系に戻されたこととなる。

以上の結果，日本産のハラビロヘリカメムシ属は2亜属5種となった。今後はこの分類体系が広く用いられるものと考えられるので，学名使用上の混乱を避けるために以下に記しておく。

日本産ハラビロヘリカメムシ属の検索表

1　体色は緑色。触角の全長は体長より長い（オオクモヘリカメムシ亜属 *Anacanthocoris*）……オオクモヘリカメムシ *Homoeocerus* (*Anacanthocoris*) *striicornis* SCOTT, 1874

体長：16～22 mm。分布：本州，四国，九州，対馬；朝鮮半島，台湾，中国大陸。

—　体色は青みがかった灰褐色～黄褐色。触角の全長は体長より短い（ハラビロヘリカメムシ亜属 *Tliponius*）……2

2　触角第1節は頭部の幅（複眼を含む）とほぼ等長……ハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus* (*Tliponius*) *dilatatus* HORVÁTH, 1879

体長：11～14 mm。分布：北海道，本州，四国，九州；朝鮮半島，中国大陸，ロシア沿海州。

—　触角第1節は頭部の幅（複眼を含む）より明らかに長い……3

3　体の両側縁は平行に近い。頭部から小楯板まで続く淡色の正中線がある。結合板には黒色の斑紋が認められる場合が多い……アズキヘリカメムシ *Homoeocerus* (*Tliponius*) *marginiventris* DOHRN, 1860

体長：13～16 mm。分布：本州，四国，九州，対馬，トカラ列島，奄美諸島，沖縄本島，宮古島，八重山諸島；朝鮮半島，台湾，中国大陸。

—　体は比較的幅広く，腹部両縁は外側に張り出す。頭部から小楯板に続く淡色の正中線は痕跡的。結合板に黒色の斑紋は認められない……4

4　結合板は黄白色で褐色の点刻はほとんど認められない……シロヘリハラビロヘリカメムシ（新称） *Homoeocerus* (*Tliponius*) *pallidulus* BLÖTE, 1936

体長10～12 mm。分布：本州，四国，九州，大隈諸島，奄美諸島，沖縄本島，八重山諸島；台湾，中国大陸。

—　結合板は黄褐色で褐色の点刻を密に散布する……ホシハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus* (*Tliponius*) *unipunctatus* (THUNBERG, 1783)

体長13～16 mm。分布：本州，四国，九州，伊豆諸島，隠岐諸島，対馬，甑列島，大隈諸島，トカラ列島；朝鮮半島，台湾，中国大陸。

III　クモヘリカメムシ類に関する覚書

1　北上するクモヘリカメムシ属昆虫

イネ科作物の害虫として知られるクモヘリカメムシ属 *Leptocorisa* はホソヘリカメムシ科に属し，日本に3種が分布する。すなわち東北以南に広く分布するクモヘリカメムシ *Leptocorisa chinensis* DALLAS, 1852，南西諸島や小笠原に分布するホソクモヘリカメムシ *Leptocorisa acuta* (THUNBERG, 1783)，南西諸島に分布するタイワンクモヘリカメムシ *Leptocorisa oratoria* (FABRICIUS, 1794) である（*Leptocorisa oratorius* とするのは誤り）。

ところが近年，ホソクモヘリカメムシとタイワンクモヘリカメムシの2種が分布を拡大していることが明らかとなり，両種とも大隈諸島にまで侵入していることが確認された。既に九州南部にまで侵入している可能性もあるので，ここに記して注意を促したい。

日本産クモヘリカメムシ属の検索表

1　頭部側面の黒筋は顕著で，触角基部から複眼まで，さらに複眼から前胸前縁の襟状部側面にまで伸びる（図-4）。触角第1節の外側は黒色となる場合が多い。オス交尾器の把握器先端は裁断状……クモヘリカメムシ *Leptocorisa chinensis* DALLAS, 1852

体長：14～17 mm。分布：本州，四国，九州，小笠原，壱岐，対馬，大隈諸島，トカラ列島，奄美諸島，大東諸島，沖縄本島，久米島，宮古島，八重山諸島；朝鮮半島，台湾，中国大陸。

—　頭部側面の黒筋は細く痕跡的であるか，完全に消失する……2

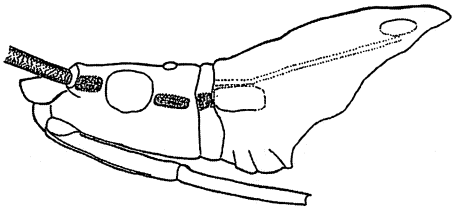

図-4　クモヘリカメムシ

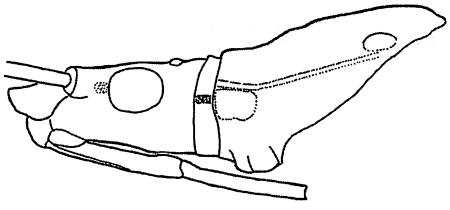

図-5　ホソクモヘリカメムシ

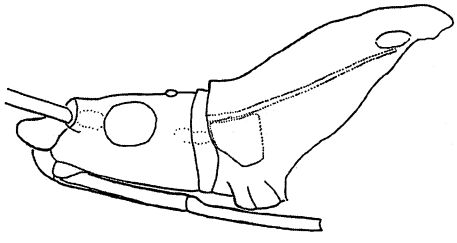

図-6　タイワンクモヘリカメムシ

2　頭部側面の黒筋は痕跡的で，触角基部から複眼の間にかすかに認められ，前胸前縁の襟状部の黒筋は細く明瞭（図-5）。オス交尾器の把握器先端は二叉状……ホソクモヘリカメムシ

Leptocorisa acuta（Thunberg, 1783）

体長：14 ～ 16 mm。分布：小笠原，大隈諸島，トカラ列島，奄美諸島，沖縄本島，久米島，大東諸島，宮古島，八重山諸島；台湾，中国南部，東南アジア，インド。

—　頭部側面と前胸前縁の襟状部側面の黒筋は通常消失する。触角第1節は黒色を帯びない（図-6）。腹部腹面には2列の褐色斑点がある。オス交尾器の把握器先端は細くとがる……タイワンクモヘリカメムシ

Leptocorisa oratoria（Fabricius, 1794）

体長：15 ～ 18 mm。分布：大隈諸島，奄美諸島，沖縄本島，宮古島，八重山諸島，尖閣列島；台湾，東南アジア，インド。

2　ヒメクモヘリカメムシ属について

ヒメクモヘリカメムシ属 *Paraplesius* はホソヘリカメムシ科に属し，タケやササに寄生する。世界にヒメクモヘリカメムシ *Paraplesius unicolor* Scott, 1874 の1属1種のみが分布する小属であったが，西南日本の平地を中心に不明種の存在が知られていた。筆者はこの不明種が中国から記載された *Distachys vulgaris* Hsiao, 1964 と同一であることを確認し，*Distachys* 属はヒメクモヘリカメムシ属と同一のものであることを明らかにした（Kikuhara, 2006）。

その結果，日本産ヒメクモヘリカメムシ属はヒメクモヘリカメムシ *Paraplesius unicolor* Scott, 1874 とニセヒメクモヘリカメムシ *Paraplesius vulgaris*（Hsiao, 1964）の2種となった。

ヒメクモヘリカメムシは体長 12 ～ 14 mm。タケやササ類に寄生する。頭部側葉と中葉の先端はほぼ等長。腹部腹面の胸部側を中心に黒色斑紋が広く発達する。分布は北海道，本州，四国，九州で，ロシアのクリル列島や韓国の済州島からも記録されている。

ニセヒメクモヘリカメムシは体長 12 ～ 15 mm。タケやササ，メダケ類に寄生する。頭部側葉の先端は中葉の先端より前方に突出する。腹部腹面には黒色斑紋はあまり発達せず，胸部側の端にわずかに認められるのみである。分布は本州，四国，九州，伊豆諸島，トカラ列島，沖縄本島で，国外では中国大陸にも分布する。両種ともに分布する地域では，ヒメクモヘリカメムシの方が標高の高い地域に生息する。

お わ り に

近年得られたヘリカメムシ類に関する新知見のうち，植物保護に関係が深いと思われるものについて紹介した。関係各位のヘリカメムシ類理解の一助となれば幸いである。

末筆ながら，これらの研究に当たり，有益なご助言をいただいた宮本正一博士，国立科学博物館・友国雅章博士，シロヘリハラビロヘリカメムシの寄主植物を発見された株式会社ウエスコ・野崎達也氏に記して御礼申し上げる。

引 用 文 献

1) Aukema, B. and C. Rieger (2006) : Catalogue of the Heteroptera of the Palaearctic Region 5, The Netherlands Entomological Society, Amsterdam, xiii + 550 pp.
2) Blöte, H. C. (1934) : Zoölogische Mededeelingen **19** : 23 ～ 66.
3) Kikuhara, Y. (2005) : Jpn. J. syst. Ent. **11** : 299 ～ 311.
4) ――― (2006) : ibid. **12** : 133 ～ 140.
5) 宮本正一 (1972) : Pulex **51** : 205 ～ 206.